

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

| | |
|----|-----------------|
| 所在 | 西東京市ひばりが丘 2-3-5 |
| 園名 | 西東京市立 ひばりが丘保育園 |

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身体感覚の発見

<テーマの設定理由>

・園庭はあるが南側にあり、遮るものがなく強い陽射しに照らされており、子どもたちが安全に遊ぶには厳しい環境である。このすくわくプログラムを機に、子どもたちが安心して探究活動を行え、思いきり身体を動かすことができるような設定にした。園庭に遮光ネットを張ることで強い陽射しを遮り、思う存分探究活動ができ、自分の身体感覚の発見につながる。

2. 活動スケジュール

- 9:30 園庭にて乗用玩具を出す。
同じスペースでボール遊びをしている子もいる。
- 9:35 台数の限られた乗用玩具をどう使うか、ボール遊びとどのように場所を分け合うか様子を見守る。
- 9:40 ミニハードルを使いジグザグのコースを作る。バランスをとって操作ができるかを見る。
- 9:50 終了

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・スペースを分けるためラインカーを準備する。
- ・コースを作るためミニハードルを準備する
- ・キックスケーター
- ・ストライダー

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・身体の動きがダイナミックになってきて、色々な動きに挑戦する姿が見られるようになってきた。乗り物に興味を持っているが数が少ないため、この機会に乗り物の台数を増やし、一人ひとりがじっくり探究活動を行えるようにこの設定にした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・子どもが自ら探究活動を行えるように職員は導入だけ手伝った。前回の経験から子どもから「線を引いて」と言いに来たため、危険の無いようラインを引くなど配慮した。今までなかった三輪スクーターやキックライダーに興味を示し、初めは慎重に乗り始めた。バランスの取り方も個人差がある。感覚が良い子は自ら身体を使いこなしどんどん上達するが、感覚が鈍い子は慎重に乗っているため、乗りこなすのに時間がかかっている。その中で、友だち同士で乗り方のコツや身体の使い方を伝え合う姿が見られた。

・線を引きミニハードルを持ってくると「何するの」と新たに関心を持ち、活動に取り組んでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・その日の活動は、保育日誌に記録し、その日のうちに職員と子どもたちと振り返りを行う。設定環境の見直しや保育者の援助と声掛けをどこまで行うかを話し合うことで次の活動につなげる。
- ・前回の経験があるのでコースを作って遊ぶ範囲を決めること、駅を作って順番に乗ることは、子どもが自主的に行っていた。
- ・キックスケーターを使う回数が増え体幹の使い方、バランスのとり方が上手になりジグザグのコースも上手に乗れるようになった。